

## 骨の数

### (1)

こんなジョークがあります。

まだ世界にアダムとイヴしかいなかったころ、アダムに仲のよい女性がいないかと思ったイヴは

「アダム、私以外にだれか女性がいないのじゃない？」

「まさか、世界にはぼくたち二人きりじゃないか」

でもうたぐり深いイヴはアダムが寝ているときにそのあばら骨をかぞえるのでした。

石黒マリーズ「キリスト教文化の常識」

ところで、生まれたとき私たちの全身の骨は 300 ほどあり、成長する間にいくつかの骨はくっついて 1 つになります。成長すると骨の数は 206 個に減少するそうです。

時として骨の融合がきちんと行われな場合があり、すると成人になっても骨の数はこのようには減りません。成人の 5% の人には余分な肋骨が認められます。しかもそれは男性のほうが女性よりもずっと多いのです。だから「イヴはアダムの肋骨からつくられた」という話になったのかもしれない。

M.ゴールドウイン「先生を困らせた 324 の質問」

### (2)

聖書に十字架刑で死を早めるために罪人の脚の骨を折る話があります。キリストはその前に亡くなっていたので、骨を折られなかったのですが、これは、復活のためにはすべての骨が無事であることが必要だった

という説明がされています。予言として詩篇に次のように書かれているからです。

「主は彼の骨をことごとく守られる。

その一つだに折られることはない」

(詩篇 34・20)

### (3)

キリスト教の影響を強く受けている北欧の神話。

ロキという神がヤギにひかせた車に乗り旅をしていました。ある民家に宿を借り、夕食にヤギを殺してその肉をふるまいます。

その時「骨は食わずに残すように」と言い渡しますが食いしん坊の息子は骨を割って中の髓を食べてしまいます。

翌朝ロキが骨を集めて祝福をすると、ヤギは復活して生き返るのですが、片足がびっこになっています。それを見て、ロキが猛烈に怒りだします。

これらの話からキリスト教が、骨と命そして復活についてどうとらえているのか理解できると思います。